

百日咳について

ひかりが丘薬局
H23. 11月号

大人の長引く咳・・・大人でも百日咳流行中です。

これまでは、乳幼児を中心に流行するとされてきましたが、最近では成人の感染が増加してきています。

成人では、咳が長引くものの典型的な咳発作がなく見逃されやすいため、周囲への感染を拡げてしまうこともあり注意が必要です。

名前のごとく、回復まで100日近く（約2～3ヵ月）かかる百日咳について取り上げてみました。

★百日咳のポイント★

特有のけいれん性咳発作が特徴の急性気道感染。

乳児、特に6ヵ月未満の小児がかかると、咳発作による無呼吸で入院が必要となったり、肺炎、脳症、けいれん、中耳炎などを合併し死にいたる危険がある。

★百日咳の経過★

①カタル期（約2週間）

- ・通常7～10日間の潜伏期を経た後、咳が激しくなる。
- ・この時期は、普通のかぜとの区別は難しい。

②痙咳期（約2～3週間）

- ・特有な咳発作・・・短い咳の連続コンコン→息を吸う時ヒューと笛声。
舌を突き出し息を詰めて咳をするため、顔が真っ赤、鼻血、
充血することがある。
- ・咳発作に伴い、鼻水のような透明な痰を出す。
- ・発熱はないか、あっても微熱。

③回復期（2・3週間）

- ・激しい発作は2・3週間で起こらなくなるが、その後も冷たい空気や運動などの刺激で咳が出ることがある。

★感染力★

抗生剤を5～7日間使用すれば、感染力はないが、菌を消滅させるためには2週間は必要。

抗生剤治療を受けていない場合、カタル期～第4週、特にカタル期初期の感染力が強い。

（裏面に続きます）

★予防★

母親からの免疫が生後1～2ヵ月で消失するため、生後3ヵ月になったらできるだけ早くワクチンを受ける。

ワクチンには90%以上の発症防止効果がある。

三種混合ワクチン（DPT）
（百日咳、ジフテリア、破傷風）

★治療★

百日咳菌に有効な抗生剤が用いられる。

咳発作は菌から産生される毒素によって引き起こされるため、服用してもすぐにはおさまらないが、咳込みを軽くし、症状の消失を早めることが可能。

子供の咳込みがひどい、大人でも今回かぜは咳が長引くと思った時には、早めに医療機関にかかることをお勧めします。

